

社会科学学習指導案（歴史的分野）

日 時 平成26年5月30日（金）第2校時
対 象 3年5組（男子19名 女子20名 計39名）
指導者 教 諭 佐 伯 暁 仁

1 単 元 「戦後日本の発展と国際社会」

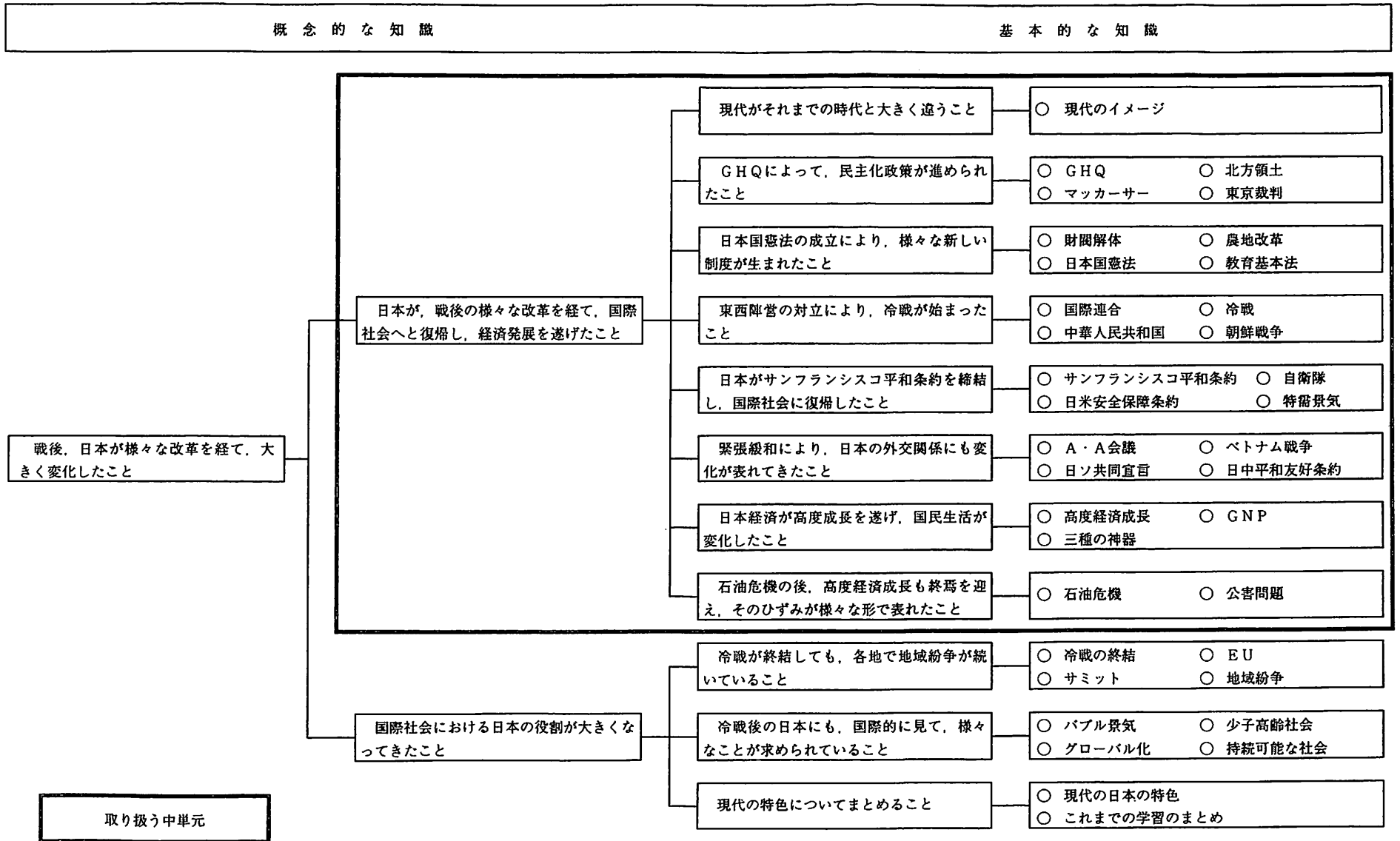
2 単元の考察

本単元は、「戦後日本の発展と国際社会」と「新たな時代の日本と世界」という2つの中単元からなる大単元「現代の日本と世界」の最初の中単元である。第二次世界大戦後、GHQ（連合軍最高司令官総司令部）の最高司令官であるマッカーサーの指導のもと、日本の民主化を目指し、様々な改革が進められ、現代の日本の骨組みが形成された。その後、日本は冷戦による米ソ両陣営の対立を経て、1951年のサンフランシスコ平和条約の締結、1956年の日ソ共同宣言の後、同年、国際連合に加盟し、国際社会に復帰する。そして、高度経済成長期にめざましい発展を遂げたことも含め、現在の日本の経済的基盤が形づくられたのがこの時代である。

事前アンケートによると、歴史的分野に対する関心の高い生徒は24名（64%）であり、地理的分野と比較すれば高い。生徒の関心が高い時代としては、江戸時代が20名（54%）、戦国時代と安土桃山時代が15名（40%）である一方、昭和時代は7名（19%）に過ぎなかった。また、昭和時代に関して思い浮かぶ歴史上の人物として「昭和天皇」を16名（43%）、昭和時代として思い浮かぶできごととして「太平洋戦争」に関係する言葉を25名（67%）が挙げているが、一方で、無回答の生徒も、人物とできごとについてそれぞれ16名（43%）、10名（27%）いた。これらのことから、生徒は、平成時代の生まれであるため、昭和時代について、自分の体験としてでなく、小学校で学習した内容、家族からの話や本・テレビ等から得た情報などによる、断片的な知識しかもたないことが分かった。

指導に当たっては、「日本が高度経済成長期を経て、GNP（国民総生産）が世界第2位になったのはなぜか」という中単元を貫く学習課題を設定し、大単元「現代の日本と世界」における学習内容を再構成する。中単元「戦後日本の発展と国際社会」の学習内容としては、戦後のGHQの指導の民主化政策から、国際社会へと復帰し、高度経済成長期へと至るまでの過程を、具体的な資料を基にとらえさせる。その際、戦後の混乱や生活の様子、国民の努力などについて、農地改革・財閥解体の実施、日本国憲法の制定、サンフランシスコ平和条約の締結、高度経済成長期における国民の生活など、具体的な事例を挙げて、当時の国民や為政者等、様々な立場でとらえさせるようにする。また、資料分析の際には、「言語活動における説明に至る事実分析のためのトゥールミン・モデル」と「言語活動における論述に至る価値分析のためのトゥールミン・モデル」という、2つの型を指導の中で適宜使い分け、資料の提示を工夫する。そして、これらの活動を通して、豊かで公正な社会認識をはぐくみ、主体的に社会の形成に参画していく態度を養っていくことにした。

3 単元の学習内容の構造化



4 単元の目標

- (1) 戦後のGHQによる改革から高度経済成長までの日本の民主化と再建の過程について関心を高めさせ、意欲的に追究させる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 日本の敗戦後、GHQによって進められた民主化政策の内容や特色を、人々の生活の変化と関連付けて、多面的・多角的に考察させ、自分の言葉で表現させる。(社会的な思考・判断・表現)
- (3) 身近な地域などの具体的な事例を基に、戦後から高度経済成長期までの人々の生活の様子、国民の努力などについて読み取らせ、ワークシートにまとめさせる。(資料活用の技能)
- (4) 戦後、政治面や経済面での様々な改革において、新たな制度が生まれたことを理解させ、その知識を身に付けさせる。(社会的事象についての知識・理解)

5 単元の指導計画と評価の重点 (全8時間) —— 評価 (授業中) —— 評価 (授業後)

主な評価場面と学習内容 (基本的な知識)	時間	評価規準				主な言語活動の 具体的場面
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
<p>現代はどんな時代だろう</p> <p>現代と近代までのイメージのちがいを予想し、課題を設定する場面</p> <p>○ 現代のイメージ</p>	1	現代のイメージから課題を設定し、その課題を意欲的に追究しようとしている。 【ノート】	近代までのイメージを基に、現代のイメージを考察し、適切に表現している。 【ノート】			《読み取り・解釈》 現代を象徴する写真を読み取り、現代の特色について解釈する場面
<p>占領下の日本</p> <p>戦前の動きとの比較を通して GHQによる占領政策について理解する場面</p> <p>○ GHQ ○ 北方領土 ○ マッカーサー ○ 東京裁判</p>	1			戦後の混乱の様子や生活の様子、国民の努力について、具体的な資料から読み取ったりまとめたりしている。 【ノート】	GHQによる占領政策に関する具体的な事例を基に理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 敗戦後の日本の領土の範囲を示した地図を読み取り、その変化について解釈する場面
<p>民主化と日本国憲法</p> <p>戦前との比較により 日本国憲法の成立について考察する場面</p> <p>○ 財閥解体 ○ 農地改革 ○ 日本国憲法 ○ 教育基本法</p>	1		第二次世界大戦後の政治・経済面の諸改革について 資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】	日本国憲法の前文から、3つの基本的な柱に当たる部分を、資料から読み取ったりまとめたりしている。 【ノート】		《読み取り・説明》 日本国憲法前文を読み取り GHQによる様々な諸改革の特色の一つとして 新しい制度が生まれたことについて説明する場面
<p>冷戦の開始と植民地の解放</p> <p>国際連合の誕生と東西の冷戦について理解する場面</p> <p>○ 国際連合 ○ 冷戦 ○ 中華人民共和国 ○ 朝鮮戦争</p>	1		アジアの情勢を通して、東アジアとの関係について 資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		国際連合の誕生や東西冷戦が世界の情勢に与えた影響などについて理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 戦後の東西冷戦について 世界地図や様々な資料から読み取り、解釈する場面
<p>独立の回復と55年体制</p> <p>東アジアの動きと関連付けながら、占領政策の転換について理解する場面</p> <p>○ サンフランシスコ平和条約 ○ 自衛隊 ○ 日米安全保障条約 ○ 特需景気</p>	1	サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約について、当時の世論を意識しながら、意欲的に追究しようとしている。 【ノート】	話し合い活動を通して サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約についての自己の主張を考察し、適切に表現している。 【観察 ノート】			《論述》 サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約の締結について、自分なりの主張をまとめる場面
<p>緊張緩和と日本外交</p> <p>緊張緩和が進む中での日本の外交関係について理解する場面</p> <p>○ A A会議 ○ ベトナム戦争 ○ 日ソ共同宣言 ○ 日中平和友好条約</p>	1		沖縄が復帰するまでの過程について、資料を基に考察し、適切に表現している。 【ノート】		緊張緩和の動きが、日本の外交政策に影響を与えたことについて理解し、その知識を身に付けている。 【ノート】	《読み取り・解釈》 緊張緩和の動きについて 年表から読み取り 解釈する場面
<p>日本の高度経済成長</p> <p>高度経済成長期における国民の生活について理解する場面</p> <p>○ 高度経済成長 ○ 三種の神器 ○ GNP</p>	本時		高度経済成長期における国民の生活の変化についての自己の主張を資料を基に考察し、適切に表現している。 【観察 ノート】	高度経済成長期に国民の生活が向上したことなどを 資料から読み取ったり、まとめたりしている。 【ノート】		《論述》 高度経済成長期における国民の生活の変化について、自己の主張をまとめる場面
<p>石油危機と公害問題</p> <p>石油危機の後、高度経済成長も終焉を迎え、そのひずみが様々な形で表れたことを理解する場面</p> <p>○ 石油危機 ○ 公害問題</p>		日本のGNPが世界第2位となった理由について、意欲的に追究しようとしている。 【観察 ノート】		高度経済成長期が終焉を迎えたことを 資料から読み取ったりまとめたりしている。 【ノート】		《論述》 日本のGNPが世界第2位となった理由について、自己の主張をまとめる場面
全8時間における各評価観点の配当時数		3	5 + 1	2 + 2	3	○数字は、授業後に行う評価の回数を表す

5 本時の実際（7／8）

(1) 主 題 「日本の高度経済成長」

(2) 本時の目標

ア 高度経済成長期における国民の生活の変化についての自己の主張を資料を基に考察させ、適切に表現させる。(社会的な思考・判断・表現)

イ 高度経済成長期に国民の生活が向上したことなどを、資料から読み取らせたり、まとめさせたりする。(資料活用の技能)

(3) 主題の考察

本単元では、高度経済成長期に国民の生活が大きく向上したことなどを学習する。1950年の朝鮮戦争後の特需景気により、復興の兆しは見えていたが、1960年総理大臣に就任した池田勇人のもと、所得倍増がスローガンに掲げられ、本格的な高度経済成長期へと突入する。その背景として、石炭から石油へのエネルギー革命、企業における技術革新、「金の卵」とも呼ばれる豊富な労働力、海外との貿易の拡大など、様々な要因が挙げられる。しかし一方で、企業が合理化を進めた結果、切り捨てられる人々も出てきたり、公害問題や過疎・過密の問題が表面化してきたりしたのも、この時代である。

アンケートによれば、「昭和」という時代の印象について、「戦争」を16名(43%)が挙げており、「昭和」という時代が太平洋戦争後も約40年以上続いたという認識は薄いようである。また、「高度経済成長」について言葉として聞いたことがある生徒が36名(97%)いるが、その内容まで正確に説明できる生徒は2名(5%)にとどまった。これらのことから、昭和の転換期である高度経済成長期について、言葉としては知っているが、そのような状況になった背景や、その後の影響に関してまで理解するに至っていないことが分かった。次に、昭和の生活について話を聞いたことがあるかどうかについて、1945年の前後で分けて聞いたところ、1945年以前について、祖父母から23名(62%)、本・テレビ・映画等から13名(35%)の生徒が情報を得ていた。また、1945年以後について、祖父母から23名(62%)、父母から12名(32%)、本・テレビ・映画等から12名(32%)の生徒が情報を得ていた。これらのことから、平成生まれの生徒たちは、昭和についての情報は祖父母から得ることが多く、現在と大きな隔たりを感じていることが分かった。

そこで、指導に当たっては、高度経済成長期前後の炭鉱都市での生活を主に取り上げる。それは、炭鉱都市での生活が、エネルギー革命により高度経済成長期の前後で大きく変化していて、人々の生活の変化を検証していくのに適切であると考えたからである。まず、九州に位置する筑豊炭田や三池炭田を取り上げ、炭鉱都市での生活について理解させる。その後、高度経済成長についての考察においては、図や資料を用いて、石炭から石油へと移行したエネルギー革命との関連に気付かせたい。また、人的移動の視点から、鹿児島と高度経済成長との関わりについても気付かせる。さらに、高度経済成長期前後の炭鉱都市における人々の生活に焦点を当てることで、人々の生活が向上したという正の部分だけでなく、炭鉱都市において、企業経営の合理化が進み、炭鉱労働者の切り捨てが始まったという負の部分にも気付かせたい。そして、これらの活動を通して、最終的に「日本が高度経済成長期を経て、GNP(国民総生産)が世界第2位になったのはなぜか」ということへの考察を深めさせていきたい。

(4) 研究に関する指導の工夫

【言語活動に合わせたツールミン・モデルの活用】

事実分析のためのツールミン・モデルと価値分析のためのツールミン・モデルの2つの型を適宜使い分けさせることで、生徒により合理的な意思決定をさせる。

(5) 本時の展開 (7/8)

主な発問や指示	単	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	主な情報提示の内容
<p><問題把握></p> <p>○ これは何だろうか。</p>	5分	<p>1 写真を見て、どのような目的で造られたものかを考え、発表する。</p> <p>2 学習課題を設定する。</p>	<p>1 炭鉱の写真から、炭鉱の基本的な姿をイメージさせる。</p> <p>2 昭和の炭鉱での生活について関心をもたせながら、学習課題を設定する。</p>	<p>資料1 田川炭鉱の煙突</p>
<p>戦後、人々の生活はどのように変化したのだろうか。</p>				
<p><本質究明></p> <p>○ 炭鉱では、どのような生活が営まれていたのだろうか。</p>	5分	<p>3 山本作兵衛の絵から、どのような生活が営まれていたのか読み取り、発表する。</p>	<p>3 炭鉱都市を中心に、戦後間もない人々の生活について、その苦勞と、炭鉱都市の繁榮ぶりに気付かせる。</p>	<p>パネル 山本作兵衛の炭鉱記録画</p> <p>資料2 主な炭鉱の出炭量の推移</p>
<p>○ なぜ、エネルギー革命は起きたのだろうか。</p>	7分	<p>4 日本の高度経済成長に関する資料から、エネルギー革命が起きた要因について考察し、発表する。</p>	<p>4 日本の重化学工業における技術革新と石油価格の下落が、エネルギー革命と関連していることを資料から読み取らせ、自分の言葉で表現させる。 【教科論6-(1)-ア】</p>	<p>資料3 一次エネルギー供給源の推移</p> <p>ワークシート 日本の高度経済成長に関する資料</p>
<p>【資料活用の技能】 高度経済成長期に国民の生活が向上したことなどを、資料から読み取ったり、まとめたりしている。</p>				
<p>○ 高度経済成長はどのようにして始まったのだろうか。</p>	6分	<p>5 年表から、1960年以降の政治の動きについて読み取り、発表する。</p>	<p>5 池田勇人内閣発足後、所得倍増をスローガンに掲げて、政府主導で経済成長が推進されたことに気付かせる。</p>	
<p>○ なぜ、三種の神器は人々の生活の中に広まったのだろうか。</p>	4分	<p>6 冷蔵庫、洗濯機、白黒テレビが、どのような背景で、人々の生活で使われるようになったのか考察し、発表する。</p>	<p>6 洗濯機の普及が女性の社会進出へと結び付いたことや、白黒テレビの普及に東京オリンピックの開催が繋がったことに気付かせる。</p>	<p>資料4 三種の神器(家電)</p>
<p>○ なぜ、日本は高度経済成長を迎えられたのだろうか。</p>	6分	<p>7 日本の高度経済成長に関する資料を、「人の移動」という視点から読み取り、その理由について考察し、発表する。</p>	<p>7 当時の中学生が置かれていた状況に共感させながら、高度経済成長の要因の1つに、地方の中学生の集団就職が関係していたことに気付かせる。</p>	<p>資料5 鹿児島県における中卒者の就職先</p>
<p>○ 炭鉱での生活は、エネルギー革命の後、どのように変化したのだろうか。</p>	10分	<p>8 三池争議に関する資料から、人々の思いを読み取り、発表する。</p>	<p>8 三池炭鉱の在り方について、経営者側と労働者の側の双方に様々な考え方があったことに気付かせる。 【教科論6-(1)-ア】</p>	<p>資料6 三池争議を伝える新聞記事</p>
<p>【社会的な思考・判断・表現】 高度経済成長期における国民の生活の変化についての自己の主張を資料を基に考察し、適切に表現している。</p>				
<p><洞 察></p> <p>○ 高度経済成長期は、人々の生活をどのように変えたのだろうか。</p>	7分	<p>9 これまで学習してきた内容を基にして、人々の生活がどのように変化したのかについてまとめ、発表する。</p>	<p>9 高度経済成長が、国民それぞれの様々な努力によって成し遂げられたものであることに気付かせる。</p>	

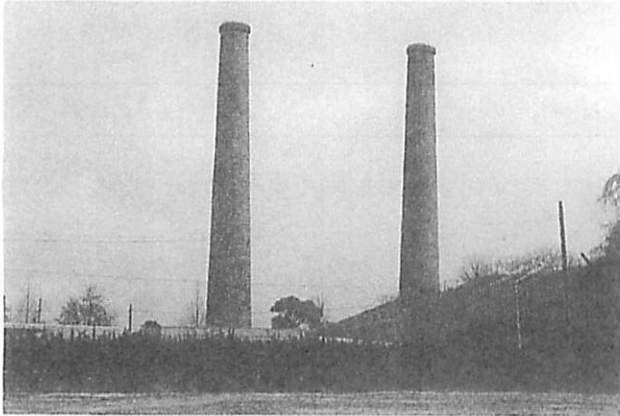
□ は評価場面、

○ は授業中における評価観点、

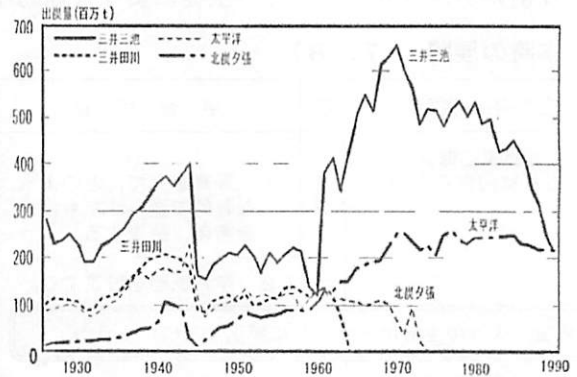
⋯ は授業後における評価観点

(6) 主な資料

資料1 田川炭鉱の煙突

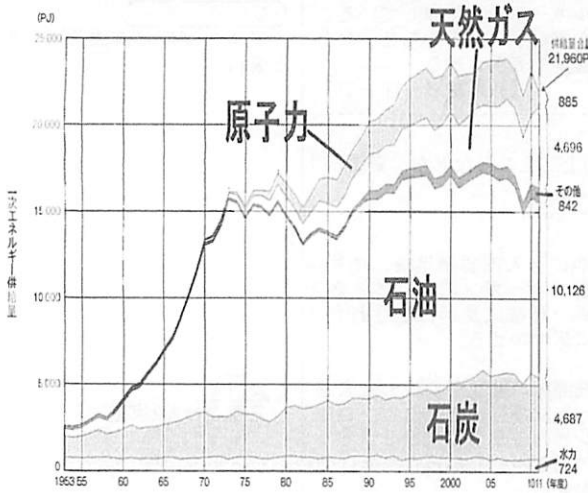


資料2 主な炭鉱の出炭量の推移



『数字で見る日本の100年』などより

資料3 一次エネルギー供給源の推移

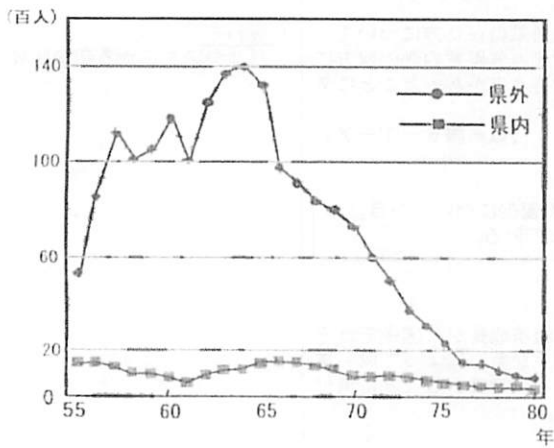


『数字で見る日本の100年』などより

資料4 三種の神器(家電)



資料5 鹿児島県における中卒者の就職先



『鹿児島県職業安定行政史』より

資料6 三池争議を伝える新聞記事

